

横須賀市立ボートパーク指定管理申請 事業計画に係る提案概要



Maris&KMBP共同事業体

代表団体:公益財団法人マリンスポーツ財団

構成団体:有限会社協立マリン

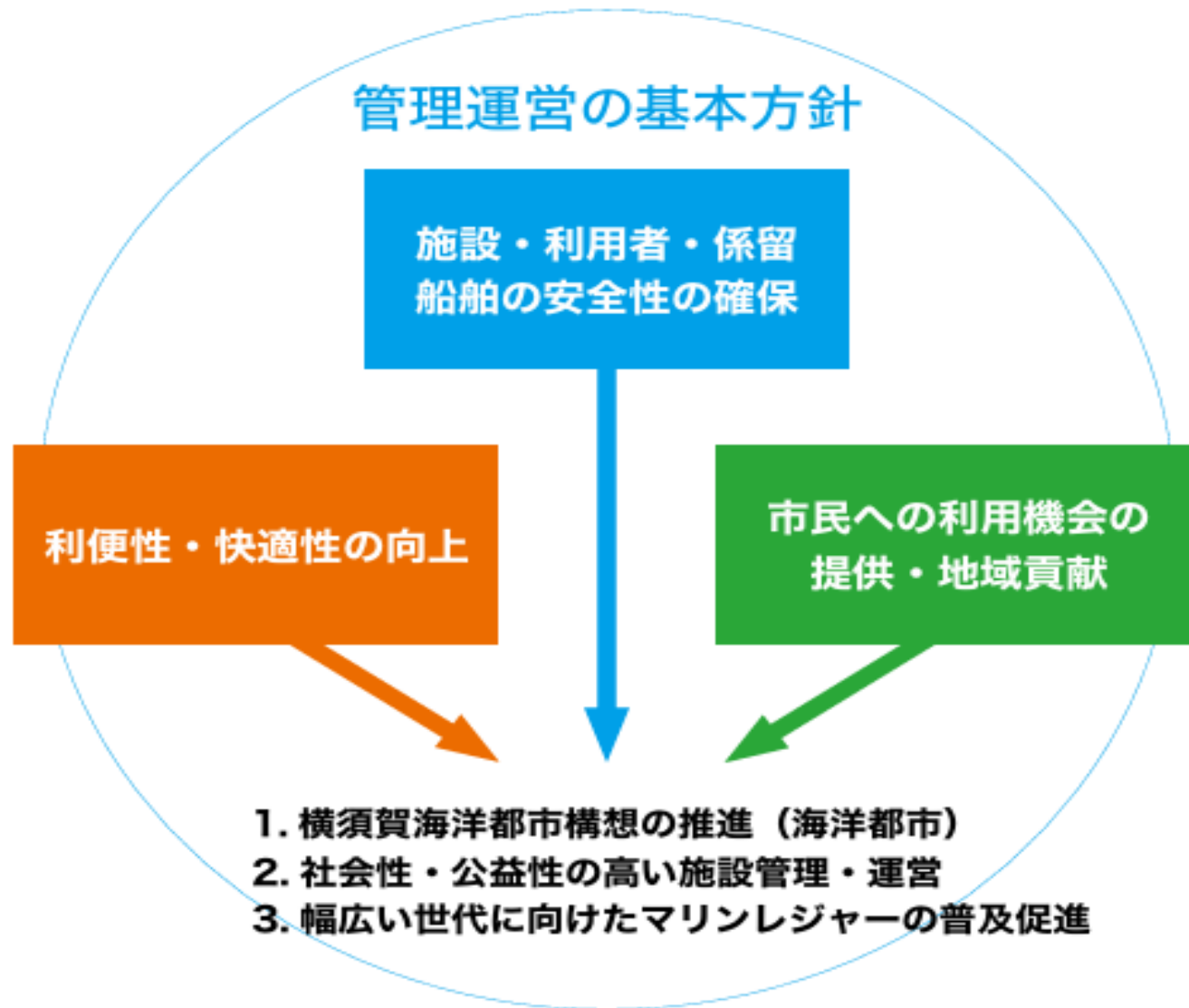
目次

1. 共同事業体による運営・管理	1
2. 運営管理の基本方針	2
3. 横須賀市の施策に沿った運営管理	5
4. 公平・公正な管理運営	7
5. 運営管理の人員体制	8
6. 管理施設の安全、快適な環境の確保	10
7. 施設の安全対策	12
8. リスクへの対応	13
9. 地域への貢献	15
10. 施設利用機会の提供	18
11. 係留利用率の向上	21
12. 運営管理の経費節減	23
13. おわりに	24

1. 共同事業体による運営・管理



2. 運営管理の基本方針



横須賀市基本構想・基本計画である
「YOKOSUKA VISION2030」の
 達成に向けた運営を目指します。



ひと

すべての“ひと”が
自分らしく輝けるまちへ

一人ひとりが自分らしく幸せでいられること。

さまざまな人々が生涯を通じて育ち、ともに成長を喜べること。

いつまでも、心も体も健やかで家族や仲間と過ごせること。

横須賀の力の源泉である“ひと”の輝きは、さらに増していきます。

まち

人も自然も
共生する“まち”へ

性別・年齢・人種などの違いを力にしていくこと。

いざという時に備え、非常時こそみんなで助け合うこと。

人にも自然にもやさしいまちで、平和に暮らしていただけること。

地域の多様性と調和が“まち”をつくっていきます。

しごと

「やりがい」と「やりたい」から
“しごと”が生みだされるまちへ

新しいビジネスに挑戦したくなること。

仕事も遊びもワクワクできること。

海や歴史、文化など横須賀ならではの魅力を生かしていくこと。

やりがいと やりたい を“しごと”の原動力としていきます。

環境

「自分ごと」の意識が
未来の“環境”を守るまちへ

横須賀の自然環境を大切に思うこと。

みんなが未来の環境について考えること。

自分ができるところから始めること。

“環境”への意識を高め、持続可能な未来へつなげていきます。

3. 横須賀市の施策に沿った運営管理

● 市民に対する親水活動への参加機会の提供

横須賀市長が方針として掲げる**横須賀市海洋都市構想**を推進し、市内外の多くの人々を対象として、横須賀市の盛り上げ・活性化に繋がる「よこすかうみかぜカーニバル」をはじめとした**体験型の親水イベントを実施**



● 海洋環境の保全活動への取組み

① **シービンによる海洋プラスチックごみの回収** 調査企業や教育機関と連携して海洋保全への関心と理解を深めることを目的に、回収した**海洋浮遊ゴミの内容調査**。

② **SGDSへの取組み** 体験乗船会イベントの開催時にゴミゼロイベントの併催
マリンスポーツ体験乗船会と併せて、海洋保全に関する**ワークショップ等を開催**して
小さな子供から大人までを対象に海洋保全への関心を高める機会を提供。

③ **水中清掃への協力** 横須賀市が実施する「**東京湾クリーンアップ大作戦**」の一環である
「海辺つり公園水中清掃」など「海洋都市」として、海を大切にするを目的とした
海洋環境の保全活動に対して、**海岸や海中清掃活動に対して積極的に協力**。



● 地域社会の活性化への取組み

浦賀駅前周辺地域の**再開発プロジェクト**へ協力します。

● 障がい者就労施設等からの物品購入、出店機会の提供

障がい者の方々の社会参加を促進するため、**よこすか障害者計画**に則り、雇用の創出や支援施設との連携を通じて、彼らの活動を支援します。

- ① 私たちは障がい者の方々の支援に積極的に取り組んでおり、就労継続支援B型事業所「つばさ第2」や田浦障がい者活動センター、NPO法人スペース・ほっとなどの支援施設と連携し、これら**事業所からの商品や物品などを適時購入**します。
- ② 本ポートパークでの自主事業（一般参加型イベント）を開催する際は、就労継続支援B型事業所への声掛けによる出店により、これら**施設で作られた食品・商品の宣伝・販売の機会を提供**や**購入**等を積極的に行います。



支援事業 深浦ポートパークイベントの風景



支援事業 浦賀ポートパークイベントの出典



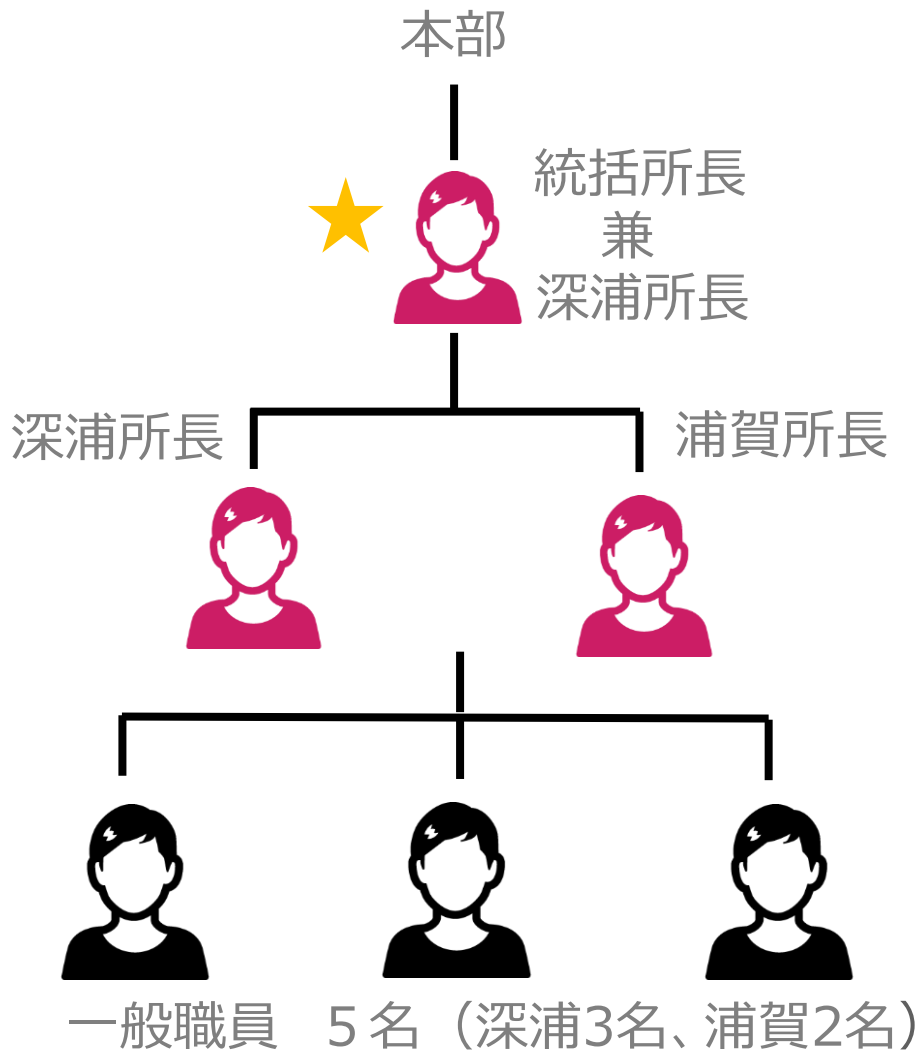
就労継続支援B型事業所より購入したクッキー

4. 公平・公正な管理運営

- 個人情報情報の適切な管理と運用
- 各種法令・規則・管理業務仕様書等の遵守
- 現係留者、新規係留者への公正かつ厳格な審査の実施
- 適正な人員配置と労働時間の管理
- 環境に配慮した運営等
- 反社会的勢力との一切の関係の遮断



5. 運営管理の人員体制



所長の保有資格

- ① 小型船舶操縦士免許
- ② 海上安全指導員
(海上保安庁指定)
- ③ マリーナ安全管理者
(日本マリーナ・ビーチ協会認定)
- ④ 救急救命講習受講



**船舶について高度な技能・知識
安全で適切な施設管理運営**

● 人材育成講習の受講

- ① 人権研修会
- ② 接遇・マナー研修会
- ③ 個人情報保護に係る研修会
- ④ 救急救命講習会
- ⑤ 防災講習会
- ⑥ 小型船舶に係る知識・技能講習会



● 働きやすい環境作り

- ① 柔軟な働き方の推進（夏期の早出作業、スタッフ間のコミュニケーション）

6. 管理施設の安全・快適な環境の確保

- チェックリストによる日常点検の実施
(陸上・水上)
- 劣化・破損箇所の速やかな補修
- 危険物や不審物の発見と適切な処理
- 係留設備の適切なメンテナンスの実施
(栈橋、スロープ、クリートなど)
- 草刈、生垣剪定・施設清掃の実施
- 季節の植栽の導入 (年2回)
- 季節に応じたイルミネーション装飾



● 日常的な業務における施設の修復作業例

これまでに本施設における簡易な補修、交換について、管理スタッフが直接行った主な事例。
施設の瑕疵箇所を発見し、迅速で適切な修繕を心掛けております。また経費の軽減にも繋がります。



栈橋フロートの損傷（補修前）



栈橋フロートの損傷（補修後）



芝生広場のベンチの補修（補修前）



芝生広場のベンチの補修（補修後）



手摺や栈橋デッキの塗装作業（美観と劣化防止）



7. 施設の安全対策

● 荒天時への対応

台風や低気圧などの接近・通過による施設の安全点検を実施し、次の項目を迅速に実施。

- ① 係船設備固定部、連結部、係船索の増し締め
- ② 各係留者・オーナーへの荒天対策指示（船体やロープ確認）
- ③ 係留船舶の避難（バース移動等）
- ④ 係留ロープの確認を行い、緊急な場合はロープを増し締め
- ⑤ 荒天対策用備品の配備（予備のアンカーやロープなど）
- ⑥ 台風接近、通過後における被害状況の迅速な確認作業
- ⑦ 大規模被害を被った際、緊急体制（連絡網）への対応と処置

※ 特に大型台風の上陸が予測される場合などは、責任者（施設管理責任者及び所長）は迅速に対応できるよう、出来るだけ近隣の安全な場所（自宅や宿泊施設など）にて待機し、緊急時に備えます。

8. リスクへの対応

● リスク管理の徹底

- ① リスク評価と予防策の策定
- ② スタッフ教育と意識向上
- ③ 緊急事態対応計画の策定と実行

● 防災への対応

- ① 緊急時マニュアルの整備
- ② 緊急時連絡体制の整備
- ③ 避難通路の確保（津波発生時の避難経路の確認など）
- ④ 定期的な避難訓練の実施（津波発生時の対応策など）
- ⑤ 火災対策（漏電防止、BP内の巡回等）

● 防犯への対応

- ① 日常的なBP内の巡回、点検
- ② 夜間機械警備の設置、注意標識の掲示
- ③ 警察への施設巡回依頼（適時）
- ④ 死角となる場所への監視カメラの増設

8. リスクへの対応

● 賠償責任への対応

- ① 指定管理者と横須賀市を被保険者として加入
- ② 補償内容 対人賠償 100,000千円／1名
500,000千円／1事故
対物賠償 50,000千円／1事故

9. 地域への貢献

(1) 地元人材の積極的な雇用

横須賀市管理施設での市内在住者の雇用率 **70%以上**を目標

(2) 市内中小企業者等への積極的な発注

ポートパーク外注業務の全発注額の **90%以上**を目標

(3) 地域経済の活性化への協力

- ① 地元団体・自治会が開催するイベント等への協力・支援
- ② 地元のイベントに出店や協賛

(4) 地場産業との連携・協力

地元海産物のPR・販売への協力、造船企業への見学会など地場産業との連携によるPRへの協力



地場産業（ワカメ無人販売協力）

(5) 地元小学校等教育機関との連携

小学校等の生徒を対象とした海洋保全に関する教育プログラムの開催に協力します。

※ 地元の浦賀小学校や浦郷小学校などとの連携を図ります。

(6) 水辺の安全教室、SDGs関連イベント、環境保全に係るイベントの実施

地元小学校等教育機関との連携 ボートパークでのマリンスポーツ体験イベントに併せて、近隣の子供たちや親子を対象に、船や海に関する歴史、水辺の豆知識、水辺で安全に楽しむ方法など、総合的な海事知識を提供する水辺の安全教室や「海洋プラスチックごみ対策アクション宣言」の賛同事業者として、SDGsへの取組みや環境保全に関する展示などのイベントを実施します。



(7) 海事産業の次世代人材育成への協力支援

横須賀市内の県立海洋科学高校の生徒に対して、今後の海事産業を担う若者として、漁業や造船業に携わる側の立場と、マリンレジャーの楽しさと安全性など正しい知識と操縦経験を養ってもらう機会を提供します。



(8) 海上安全パトロールの参加（安全啓発活動）

ボートパークに従事するスタッフは、海上保安庁指定の海上安全指導員として登録されており、横須賀海上保安部と連携して、横須賀周辺海域の安全啓発パトロールに参加してボートパーク利用者を含めた船舶操縦者への小型船舶操縦に関する安全指導を行います。

10. 施設利用機会の提供

(1) 各種マリンスポーツ体験イベント（年2回、300名程度）

両ポートパークを活用し、「海洋都市横須賀」として多くの市内外の一般の方を対象に、それぞれのポートパークの特性を活かした各種マリンスポーツを楽しめる機会を横須賀市と協働して提供します。

◎うみかせカーニバルin深浦の映像
(2024年6月9日開催)



◎うみかせカーニバルin浦賀の映像
(2024年7月21日開催)



(2) 横須賀海の魅力再発見クルーズin深浦・浦賀 **参加費無料**

「海洋都市横須賀」の海の魅力を再発見を目的として、一般市民を対象に、両ボートパークを起点に観光地をボートで巡るクルーズコース体験の実施します。

◎ 深浦ボートパークを起点に、猿島や三笠公園など横須賀の観光地をプレジャーボートで巡るクルーズイベントを実施します。

- ▶ 募集予定人数：50名／年
- ▶ 実施予定時期：5～10月（年間計6回）（1回／月）



◎ 浦賀ボートパークを起点に、周辺の歴史的・文化的な史跡（浦賀奉行所、浦賀ドックなど）を案内しながら、海洋都市横須賀の海の魅力を再発見するクルージングを実施します。

- ▶ 募集予定人数：30名／年
- ▶ 実施予定時期：5～10月（年間計6回）（1回／月）



(3) ビジター船向け入港ルートの公開

初めて入港する方への安全航路の案内

(4) ウェブサイト・各種SNS 海の駅及びタウン誌等への掲載 での情報発信

『よこすか ふかうら海の駅』に登録済
(本事業共同体にて2016年5月登録)

ビジター（一時係留者）の拡充とボートパークのPR



「海の駅」認定証	
No. 57	
名 称	よこすか・ふかうら 海の駅
所 在 地	神奈川県横須賀市浦郷町1丁目60番地8
運営主体	公益財団法人 マリンスポーツ財団
施設概要	◎トイレ、インフォメーション、給水施設、応急医療・病院
認定年月日	平成 28 年 5 月 1 日

海の駅ネットワーク規約(平成25年6月3日制定)第5条第3項の規定に基づき交付する。

平成 28 年 5 月 1 日

海の駅ネットワーク
会 長 小村 和年

海の駅ネットワーク
会 長 小村 和年

11. 係留利用率の向上

(1) 深浦及び浦賀ボートパークにおける係留状況

① 深浦ボートパーク

係留可能バース数（99隻分）に対して99隻

ブイ係留可能数（10隻分）に対して10隻

計109隻（係留率100%）

② 浦賀ボートパーク

係留可能バース数（64隻分）に対して

64隻（係留率100%）

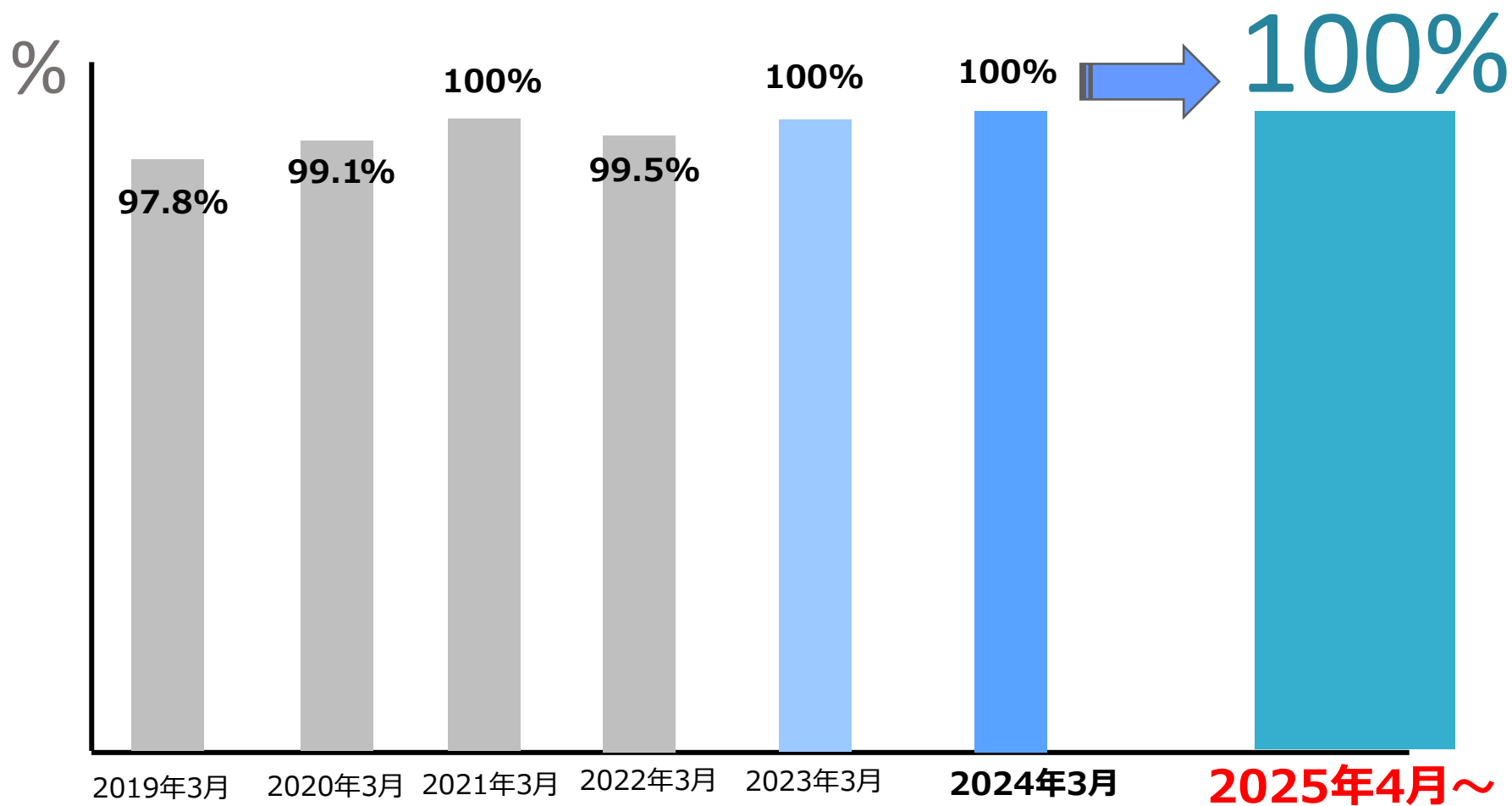
両施設の係留隻数は173隻（係留率100%）

2024年3月現在

※ 1 係留可能バース数とは、係留危険区域（荒天時に風波の影響を受け易い危険なバースで、過去に沈没や著しい破損があったバース、または放置艇対策、臨時係留等の対策用して空席）を除くものをいう。

※ 2 ブイ係留可能とは、深浦・長浦地区において新規船舶の使用を認めない区画を除くものをいう。

今後も更なる係留率の向上を目指します。



12. 運営管理の経費節減

(1) 経費の削減

- ① 曜日に応じた人員配置
- ② 修繕箇所の早期発見・自営での修復等
- ③ 柔軟な働き方等（夏期の清掃・草刈など屋外業務は早朝出勤）

(2) 省エネ・省資源の促進

- ① 室内温度の管理
- ② マナーアップキャンペーンによるゴミ発生量の減少
- ③ 電気・水道使用量の監視



13. 終わりに

私たちは、公共施設である本ボートパークの適正な施設運営管理を通じて、地元人材の積極的な雇用や中小企業者への積極的な発注、障がい者就労施設との連携を図ります。

また、施設利用者への安全と安心を提供するとともに、**横須賀市が提唱する海洋都市や観光立市構想**に賛同し、『多くの市内外の皆様に、横須賀の海と船への関心を高めてもらうとともに、各種マリンスポーツイベントの開催を通じて地域の活性化』を推進します。

ご静聴ありがとうございました。

Thank you!

